

「深い思考力」と「多角的な視点」 POINT 1

文学部の最大の特徴は、人文社会科学という1つの学科の中に13の専攻と1つのプログラムが設置されていることです。人文科学から社会科学を網羅した上で、理系に近い分野も含む約1,000科目を開設してい

ます。所属する専攻（プログラム）で高度な専門性を身につけると同時に、ほかの専攻の分野も学ぶことで、個々の専門分野の境界を越えて、「深い思考力」と「多角的な視点」を養うことができます。

「コミュニケーション能力」 POINT 2

文学部では少人数の授業科目が多く、全専攻（プログラム）で1年次から基礎演習を設置しています。少人数の授業や演習では「発表」や「人の発表に対して質問・意見をする」機会が多く、論理的な思考と多角的視野で考察し、「相手にわかりやすく

伝える能力」が養われます。授業の中で実践的な発信能力を鍛えることにより、相手の話の意図をくみ取った上で、明確な回答ができる、真のコミュニケーション能力が身につきます。

「文章作成能力」 POINT 3

文学部ではレポートを作成する機会が多く、すべての専攻（プログラム）において卒業論文、卒業研究もしくは卒業課題研究が必須です。低年次の必修科目である「大学生の基礎」では、レポートの書き方の基礎知識から学び、卒業論文を執筆する際に

は教員から一人ひとり丁寧に指導を受けることができます。同時に、レポートや卒業論文作成のためには、多くの文献を読み、その中から適切な情報を収集し、自分なりの意見を持つ必要があるため、「情報収集能力」も培うことができます。

「主体性」 POINT 4

文学部独自に設置している学外活動応援奨学金では、学外での研究・調査活動、初修外国語などの語学研修、国内外でのインターンシップ、ボランティア活動への参加など、キャンパスに収まらない学びをサポートしています。また、「グローバル・ス

タディーズ」という授業では、国内外への実地調査を実施するなど、文学部生は世界中を学びの場としています。このように文学部では学生の「主体性」を高めるサポート体制を整えています。

社会で活躍する 文学部生の力



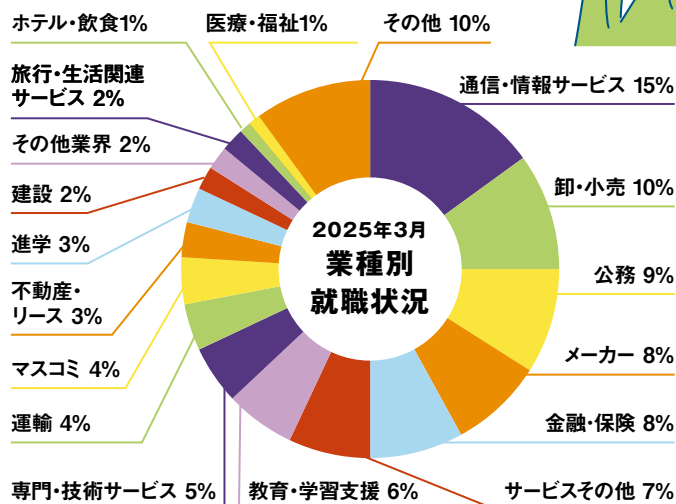
2024年度 中央大学文学部卒業生就職実績

就職決定率

96.2%

主な進路

東京都教育委員会／東京都庁／法務省／国税庁／厚生労働省／国土交通省／明治／楽天グループ／キーエンス／日本航空／JR東日本／日本通運／伊藤忠商事／フジテレビジョン／東急エージェンシー／サイバーエージェント／日本総合研究所／日本生命保険／みずほフィナンシャルグループ／オリエンタルランド／東京大学／京都大学など



文学部の特徴的な学びと支援



グローバル・スタディーズ

世界で活躍できる人材の養成、および学生の外国語運用能力を含めたコミュニケーション能力の向上を目的とする、文学部独自の派遣プログラムです。国内外で実施する地域研究やグローバル化を主眼とする実態調査・研修活動等を行います。

＜派遣先例＞

香港、オーストラリア、韓国、アメリカ、ベトナム、マレーシア、タイ、山梨県など

キャリア教育科目

1・2年次配当で「キャリアデザイン」という科目を設置し、低年次から自分の将来設計を考えるきっかけを提供しています。これは、単なる職業選択にとどまらず、将来、自分がどのように生きるのか、どのように働くのかを考えるための科目です。入学直後から将来設計・進路選択を考えるのは難しいことですが、自信をもって自分に合った将来設計・進路選択ができるよう、自分自身について、社会・仕事について認識を深める手助けとなります。

共同研究室

広大な多摩キャンパスの中でホッとできる居場所があることも、文学部の魅力です。専攻ごとに共同研究室が設けられており、専門図書の貸し出し、自習、レポートや卒業論文の資料収集はもとより、読書会やディスカッションの場として、友人と自由に語り合い教職員に気軽に相談する場としても利用できます。各研究室には室員という専門スタッフが常駐しており、資料や文献の探し方等のサポートを受けることも可能です。

キャンパスメンバーズ

キャンパスメンバーズとは、対象となる博物館・美術館の受付で学生証を提示するだけで、無料または割引料金での観覧ができる制度です。深い教養を備え社会で活躍する人材を育成するためのひとつの学修環境づくりとして、文学部生を対象として「東京国立博物館」および「国立美術館」（東京4館）のキャンパスメンバーズに加入しています。国立美術館の「東京4館」とは、東京国立近代美術館、国立西洋美術館、国立新美術館、国立映画アーカイブを指します。

教職課程

教職課程の科目で卒業単位数に含まれる科目が多数あるため、他学部と比較して教職課程の単位を取得しやすいという特徴があります。例年、中央大学全体の教職課程修了者数のうち半数以上を文学部生が占めています。

資格課程

教職課程のほかにも、学芸員、社会教育主事、司書、司書教諭という4つの資格課程を設置し、社会のさまざまなニーズに応える人材を輩出しています。専門職としての資格を取得することで、将来の選択肢を増やすことができます。

奨学金

留学、調査活動、ボランティア等に積極的に取り組む学生を支援・応援するため、さまざまな奨学金制度を用意しています。

■ 奨学金一覧

奨学金名	対象	給付額	給付人数
学長賞・学部長賞給付奨学金	学力・人物ともに特に優れ、本大学全体を活性化 する人材であると期待される学生	学長賞：約 41 万円 学部長賞：23 万円	学長賞：1 名 学部長賞 28 名
文学部給付奨学金		12 万円	20 名程度
文学部短期留学プログラム 給付奨学金	本学の留学制度を利用して留学する学生	18 万円	20 名程度
文学部長期留学奨励奨学金		留学期間 1 年間：36 万円 留学期間半年間：18 万円	15 名程度
学外活動応援奨学金	学外活動（国内外でのフィールドワーク、ボランティア、インターンシップ等）に取り組む学生	10 万円、20 万円、30 万円 のいずれかを選択	20 名程度

学びのパスポートプログラムから 第一期卒業生を輩出

2021年4月に開設された学びのパスポートプログラムは、2024年度に1年生から4年生まで揃う完成年度を迎え、2025年3月に初めての卒業生を送り出しました。

「まなパ」で見つけた自分だけの学び

卒業課題研究テーマ：海外にルーツを持つ子どもの教育課題について
—群馬県大泉町の学校現場の現状に焦点をあてて—

いそはた ゆうか
五十畑 優香

私立関東学園大学附属高等学校(群馬県)出身
就職先：埼玉県庁(総合職)

私が大学受験を迎えたタイミングで新設されたのが「学びのパスポートプログラム」(以下、「まなパ」)でした。人文系や社会文化系に興味がありつつも明確に学びたい分野が見つかっていなかった私にとって、13の専攻領域を横断的に学べる「まなパ」は理想的な選択肢でした。

実際に入学してみると、「社会文化系」と「スポーツ文化系」という二つの系統を軸に、多様な価値観やバックグラウンドを持つ学生たちが集まっていて、良い意味で驚きました。その時々々の興味に合わせて授業を選択できるので、3年次には「子ども」×「多文化共生」という研究テーマを見つけることができました。

卒業課題研究のタイトルは「海外にルーツを持つ子どもの教育課題について—群馬県大泉町の学校現場の現状に焦点をあてて—」です。外国人住民の割合が高い群馬県大泉町をフィールドに、海外にルーツを持つ子どもたちの教育課題に着目しました。中坂恵美子先生の助言を受けながら調査を進め、現地に足を運んで観光協会や教育関係者へのインタビューも実施。その結果、「文化の違いによる保護者対応の難しさ」

「多言語に対応できる教育人材の不足」「教育関係者同士の交流や研修機会の少なさ」という三つの主要な課題を抽出することができました。他分野を結び付けた研究でこのような成果をあげることができたのは、「まなパ」の授業で多様な価値観に触れてきたからこそだと確信しています。

就職活動においては、「利益ではなく、人のために働きたい」という思いが強く、民間企業には応募せず公務員試験に専念しました。大学入学と同時に一人暮らしを始めた際、行政手続きなどを通して役所の方々に支えてもらった経験や、授業でさまざまな社会課題に触れたことが、公務員をめざすという決断の後押しになりました。

卒業後は、出身地の地方自治体に勤務します。スケールの大きい業務に携われること、地元で貢献できることが地方自治体を選んだ決め手でした。ゆくゆくは卒論でのテーマでもある「子ども」や「多文化共生」を支援する業務に携われたらと考えています。「まなパ」で養った発言力と主体性を活かし、みずから課題に働きかけ、発信できる公務員として成長していきたいです。



社会文化系 教員からのmessage



横山佐紀教授、中坂恵美子教授、尹智鉉教授

社会文化系の卒論・卒業課題研究は、ジェンダー、障害者福祉、スポーツと人種差別、スポーツにおける緊張、動物園と動物福祉、先住民アートと美術館、推し活、ミュージカル子役のキャリア、競馬の歴史など多様なテーマについて、さまざまな学問分野からアプローチするものでした。そのために、指導教員である社会文化系の教員だけでなく、13専攻の教員に助言を求めて研究を進めた人も多く、さらには3年次から専攻の演習で学んだ成果をまとめた人もいます。

五十畑さんは海外ルーツを持つ子どもの

教育について、教育学専攻の教員にも助言を得ながら現地での聞き取り調査も複数回実施して執筆を行いました。テーマを探すのも学問分野を決めるのも自分であるという自由は、時に苦しいこともあったかもしれませんが、それを乗り越えて卒業予定の人たちすべてが卒論・卒研を提出できたことを、大変うれしく思います。卒業証書というパスポートを手に社会へ旅立った皆さんの健康とご活躍をお祈りしています。

なかさか えみ こよやま さき
文学部教授 中坂 恵美子・横山 佐紀

卒業生の主な進路先

法務省／東京都中野区役所／宮崎県教育委員会／伊藤忠商事／しまむら／積水化学工業／カナデビア／三菱地所／サイバーエージェント／全日本空輸／エイチ・アイ・エス／JR東日本／テレビ東京／三菱UFJ銀行／星野リゾート／J1岡山（プロ選手）



卒業論文／卒業課題研究のテーマ例

新自由主義体制下のジェンダー価値観／動物園における『種の保存』／シティプロモーションにおける自虐的ユーモア／スポーツにおける人種差別／スポーツ・メガイイベントのレガシー／アイスホッケーの町におけるNGOの取り組み



スポーツを軸に走りきった4年間！

卒業論文テーマ：日米の大学学生アスリートに対する学習支援制度について

岸部 拓音

神奈川県立横浜国際高等学校出身
就職先：日本航空（客室乗務員）



私が「学びのパスポートプログラム」（以下、「まなパ」）を選んだ理由は二つあります。一つは、文学部人文社会科学の13の専攻領域を横断して学べる先進的なカリキュラム、もう一つはスポーツを専門的に学べる環境です。スポーツを扱う学部・学科は他大学にもありますが、科学的ではなく文化的にアプローチできるのは「まなパ」ならではの感覚でした。

入学後は体育連盟ラクロス部に所属しつつ、「まなパ」での学びをスタートさせました。第一期生だったため先輩の前例がなく、履修を組み立てるのに苦労しましたが、これが自主性を養う貴重な機会となりました。スポーツに直接関係のない科目も数多く履修し、学びの視野を広げることを意識しました。

2年次後期から3年次前期には夢だった留学を実現。アメリカ・東テネシー州立大学でスポーツマネジメントを専攻しながら語学力の向上に励みました。現地には日本という体育会に所属する学生アスリートが多く、大学の手厚いサポートや、文武両道を体現する学生アスリートたちの意識の高さには大いに刺激を受けました。

留学経験を生かし、卒論のテーマは「日米の大学学生アスリートに対する学習支援制度について」に設定。向山昌利先生のご指導の下、主観に偏らないデータに基づいた論文執筆に注力した結果、日本よりも制度面で進んでいるアメリカにも根深い構造的な課題があることを明らかにできました。

就職活動では、「スポーツで世界の人々を笑顔にする」を軸に企業を探しました。内定をいただいた航空会社は、一見スポーツとは関係が薄いように思われがちですが、スポーツ選手やチームの移動を支えるという重要な役割を担っており、地域連携プロジェクトを通じてスポーツとかかわる場面もあります。留学で培った語学力を生かせるチャンスもあり、これからどんな挑戦ができるか楽しみです。

「まなパ」での4年間をとらえて、自主性を養うことができたと思えます。部活動と学業を両立する仲間も多く、互いに支え合いながら充実した学生生活を送ることができました。これからは自分の強みを活かし、お客様に笑顔をお届けするような接客をめざします。そしていつか、スポーツを通して地域や人々をつなげるプロジェクトに携わりたいです。

スポーツ文化系 教員からのmessage



加納樹里教授、向山昌利准教授、布目靖則教授

本年度の卒業論文・卒業課題研究では、スポーツイベントのレガシー、競技普及、女子選手のパフォーマンス、ダンス文化としてのK-POPアイドルなど、多岐に渡るテーマが設定されました。いずれも、身近なスポーツの課題を社会と関連づけて考察するものであり、スポーツを多角的に捉え、新たな意味や価値を見出すとともに、諸種の課題解決に繋げようとする、スポーツ文化系の理念を体現するものでした。

岸部さんは、ラクロス部での活躍や海外留学の経験を生かし、米国の大学におけるスポー

ツと学業の両立を支える制度について研究しました。米国の制度を単に理想像として描くのではなく、制度が抱える課題にも目を向け、批判的に考察を深めた点は注目に値します。

自身の経験と大学で学んだ知識を有機的に結びつけ、新しい価値を生み出す力は、変化の激しい現代社会で活躍するための基盤となるものです。岸部さんをはじめとする卒業生たちが、それぞれの進路でその力を存分に発揮してくれることを心より期待しています。

文学部准教授 向山 昌利